巻頭言

これからの学会誌

橋本 敬太郎*

現在，日本循環制御医学会より大きい日本薬理学会の理事長をしており，最近学会誌の改革を目指していくつかの変更をしたが，思わぬ事態も発生しているので，ご参考までに紹介したい．薬理学会は英文誌と邦文誌を毎月発刊しているが，英文誌は国際誌を目指して本年から"Japanese"をはずし，また会員特に6000人の会員の内の，会員歴等で資格が取れる約1500名の学術評議員は強制的に購読を求めていたのを，電子ジャーナル化に伴い購読しない選択肢を設け，会費を値下げすることとした．日本循環器学会はすでに英文誌の"Japanese"を外し，"Circulation Journal"になり，順調に出版をし，また impact factor も下がることは無かった様であるが，著者らの"Journal of Pharmacological Sciences"については，始まったばかりではあるが，投稿数，impact factor などの動向に大いに注意を払っていかなければと思っている．電子投稿，電子査読も海外一流誌は既に当然のこととして普及しているが，国内での開始も誌名変更と同時に計画したが，J-stage を利用してのシステム構築は学会専従職員が頑張っているが，独自のシステムを目指しているためか，簡単にはいかない様である．また薬理学会が基礎医学系の学会でも18000円という雑誌付ではあるが高いためか，当初予想したより，雑誌の購読を希望しない評議員の数が多くなり，予算の計画にも狂いが生じそうである．毎年12冊以上が本棚に貯まり，同じ雑誌が教室内に複数あっても意味がないが，少なくとも各施設に1冊は必要であると予想したが，若い人はパソコン上で論文が見られ，必要なものだけプリントアウトすれば充分と思うのであろう．と云う自分自身も，論文の文献などはわざわざ図書館の本棚で，重い製本した雑誌に当たって調べることをやめ，パソコン上で MEDLINE を開いてチェックする事でごまかすことを覚えてしまっているので，若い人の悪口は言えないのであるが．いずれにしても，学会が出版する雑誌，特に邦文誌はこれからどうするかは大きな問題であろう．我々の小さいながら融合領域のこの学会として，基礎，臨床家を含めた会員に最新の知識をまとめた総説を中心にした「循環制御」は編集委員の努力で読みでのある物にはなっていると思うが，近い将来，ホームページを情報提供や意見交換の主な媒体として移行するかなども考えねばならないだろう．

*山梨大学医学部薬理学教室

Presented by Medical*Online